

第Ⅲ章 都市空間デザイン指針

Ⅲ－１．^{けい} ３つの景のデザイン指針

	^{けい} ３つの景の紹介	13
1.	^{であい けい} 出会の景	14
2.	^{こだち けい} 木立の景	19
3.	^{みずべ けい} 水辺の景	23

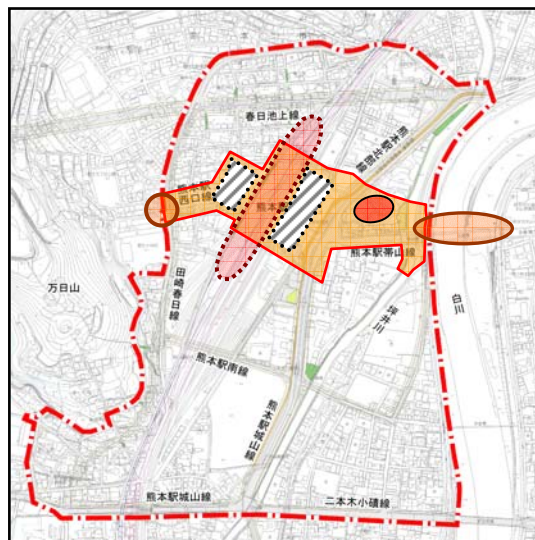
3つの景の位置と、それを構成する要素の中で、大切にしたい空間を示します。

1. 出会の景

広場が結ぶ緑と出会いと交流の空間

《大切にする主な構成要素》

道路	駅前広場（東口・西口） 熊本駅帯山線 熊本駅西口線（西の導入部） 大きな隅切り（交流広場） 春日橋・白川橋（東の導入部） 市電軌道敷
道路付属物	ペデストリアンデッキ 電停施設、バス停施設
河川	水辺の広場 石塘、石塘堰
鉄道	熊本駅舎
沿道敷地	東A地区（建物・外構） その他沿道建物と外構



2. 木立の景

地域とつくる木立の中を市電が走る空間

《大切にする主な構成要素》

道路	熊本駅北部線 熊本駅城山線（南北方向） 祇園橋周辺（北の導入部） 三橋橋周辺（結節拠点） 田崎橋周辺（南の導入部） 市電軌道敷
道路付属物	電停施設、バス停施設
沿道敷地	合同庁舎（建物・外構） その他沿道建物と外構

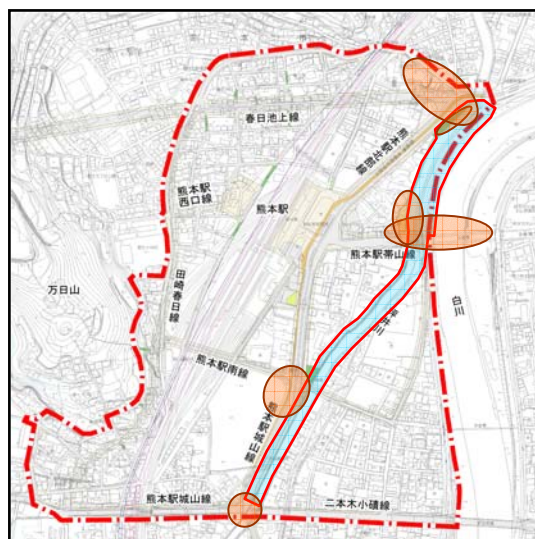


3. 水辺の景

水辺とまちが交差する回遊空間

《大切にする主な構成要素》

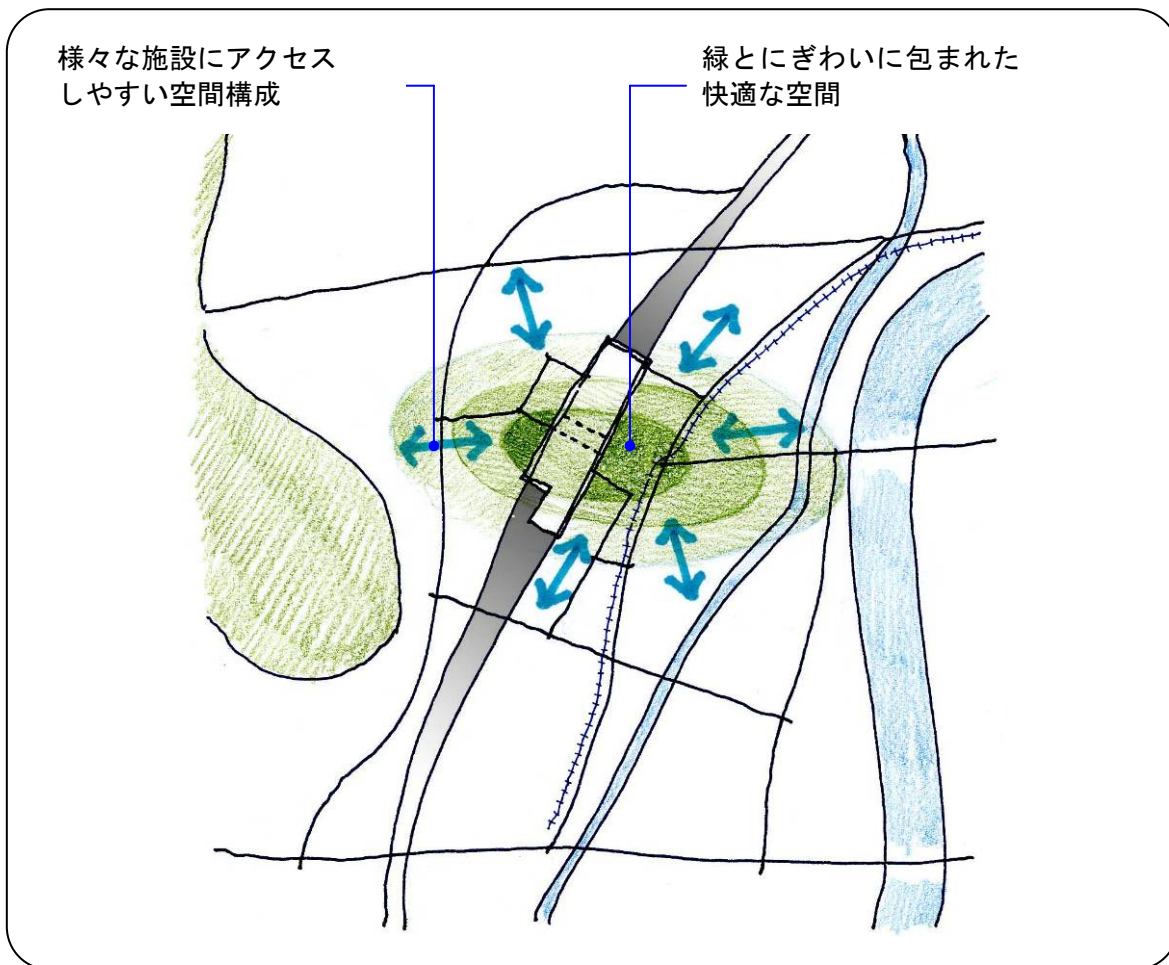
河川	白川 坪井川 水辺の広場 水辺の小径 石塘、石塘堰
道路	背割堤上部の歩行者専用道路 春日橋・白川橋（東の導入部） 熊本駅城山線（坪井川に沿う部分） 祇園橋周辺（北の導入部） 三橋橋周辺（結節拠点） 田崎橋周辺（南の導入部）
沿道敷地	河川沿いの建物と外構



出会の景について、都市空間デザインのコンセプトを示します。

(1) コンセプト

○熊本の玄関口として、広域交通結節点の駅を中心に緑とにぎわいに包まれた快適でわかりやすい空間を形成します。



わかりやすさ

「駅」としての機能性と共に東の水辺広場や西の山々へ導く明快な方向性、そして周辺施設へのわかりやすい動線確保します。

にぎわい

広場と沿道の民有空間が一体となり、出会いとにぎわいを演出・創造します。

居心地の良さ

出会の景の中にたたずみ・留まることが心地よく感じられる空間を形成します。

熊本らしさ

周辺の山並み、水辺のうるおいなど周辺環境と一体となって熊本らしい地勢・自然が感じられる空間を形成します。

豊かな緑

公園のようなまとまりの感じられる、緑の空間を形成します。

安全・安心

昼も夜も利用者の安全と安心を確保します。

出会の景について、空間の考え方を示します。

(2) 空間の考え方

出会の景では、多様な機能を有する施設と様々な魅力を持つ空間が連携し、熊本の玄関口としての魅力を高めるため、

- ・わかりやすさを確保する「空間の連続性」
 - ・にぎわいを創出し居心地の良さを感じる場となる「タマリ空間」
 - ・誰にも優しく判りやすい移動経路確保のための「熊本ホスピタリティ」
- を大切な空間の考え方とします。

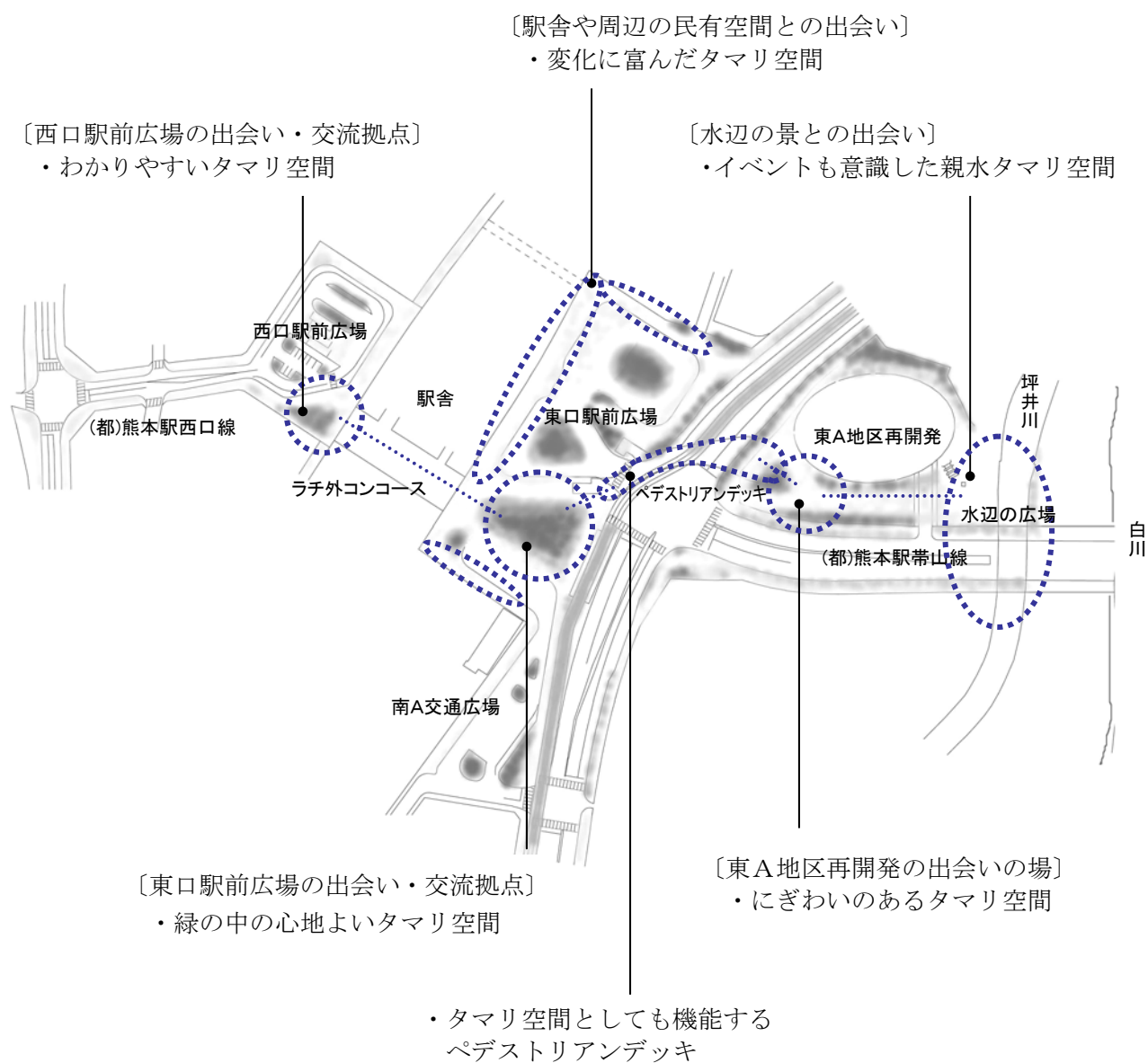
① 空間の連続性を大切にする

熊本駅西口線～西口駅前広場～東口駅前広場～東A・B地区～水辺広場までを、ひとまとまりの「緑と出会いと交流の公園（パーク）」と捉え、緑とにぎわいを連続的に展開します。



② タマリ空間を大切にする

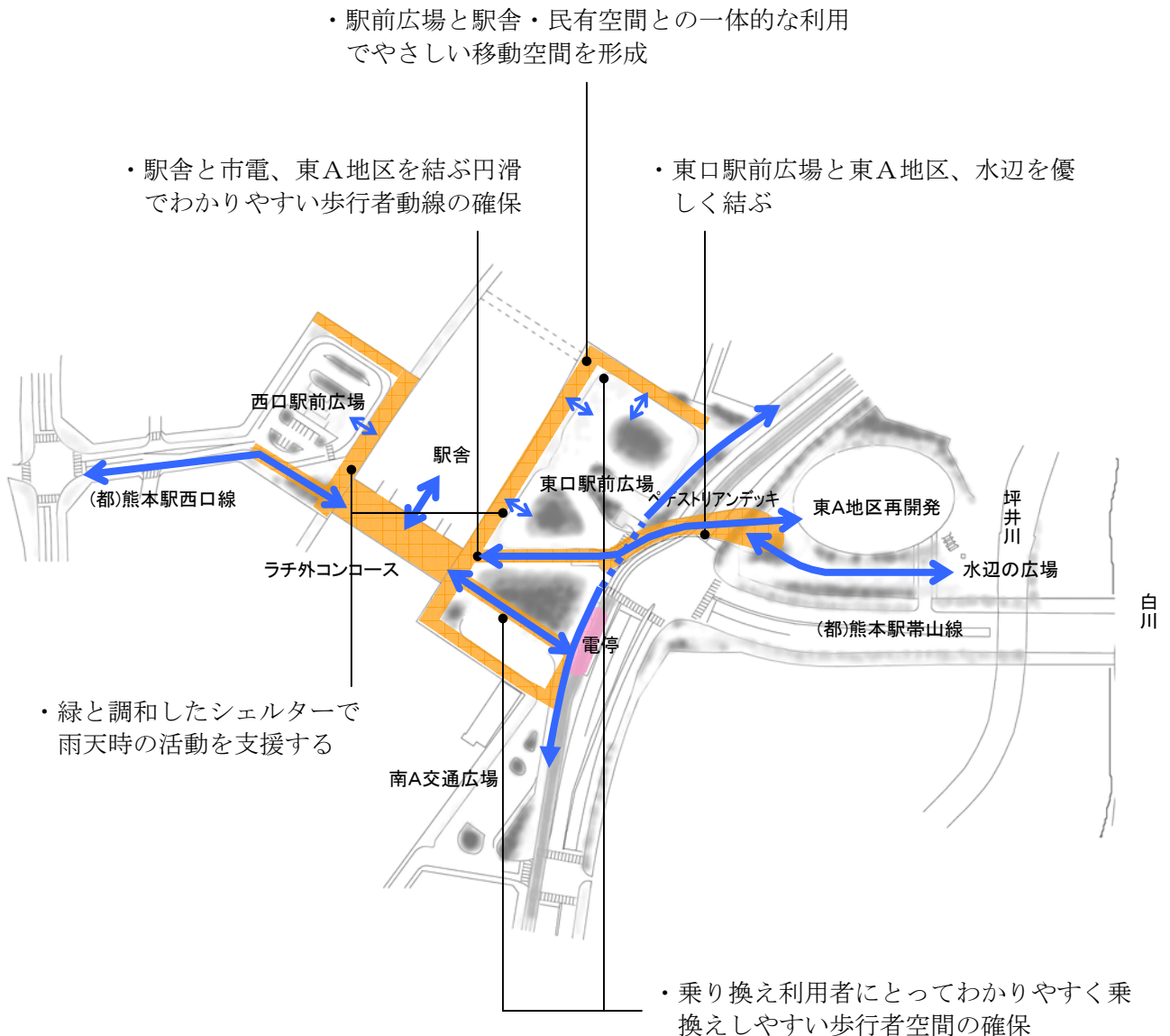
出会いの場には、にぎわいとうるおいの交流拠点となるタマリの空間を配置します。



- ・タマリ空間は煩雑・華美にならない熊本らしい施設配置とします。
- ・タマリ空間には、積極的に熊本の水を楽しむ施設を配置します。

③ 誰にも優しい熊本ホスピタリティを大切にする

すべての交通機関の相互乗換えがしやすい「駅の優しさ」を確保します
 周辺の様々な施設へ誘う「わかりやすさ」を確保します



- ・人の自然な流れを大切にし、動きの分岐点には移動の手がかりとなるサインを配置します。

出会の景について、コンセプトや空間の考え方を基に、一つの例としての空間のイメージを示します。

(3) 空間のイメージ

豊かな緑の配置の中に抜けるように開いた空が見えることで、都市の骨格として、また明快な方向性をもって東A地区再開発や水辺広場へと導きます。

また、多様なにぎわいを受け止めるとともに、わかりやすい乗換機能を備えた広場空間を表現しています。

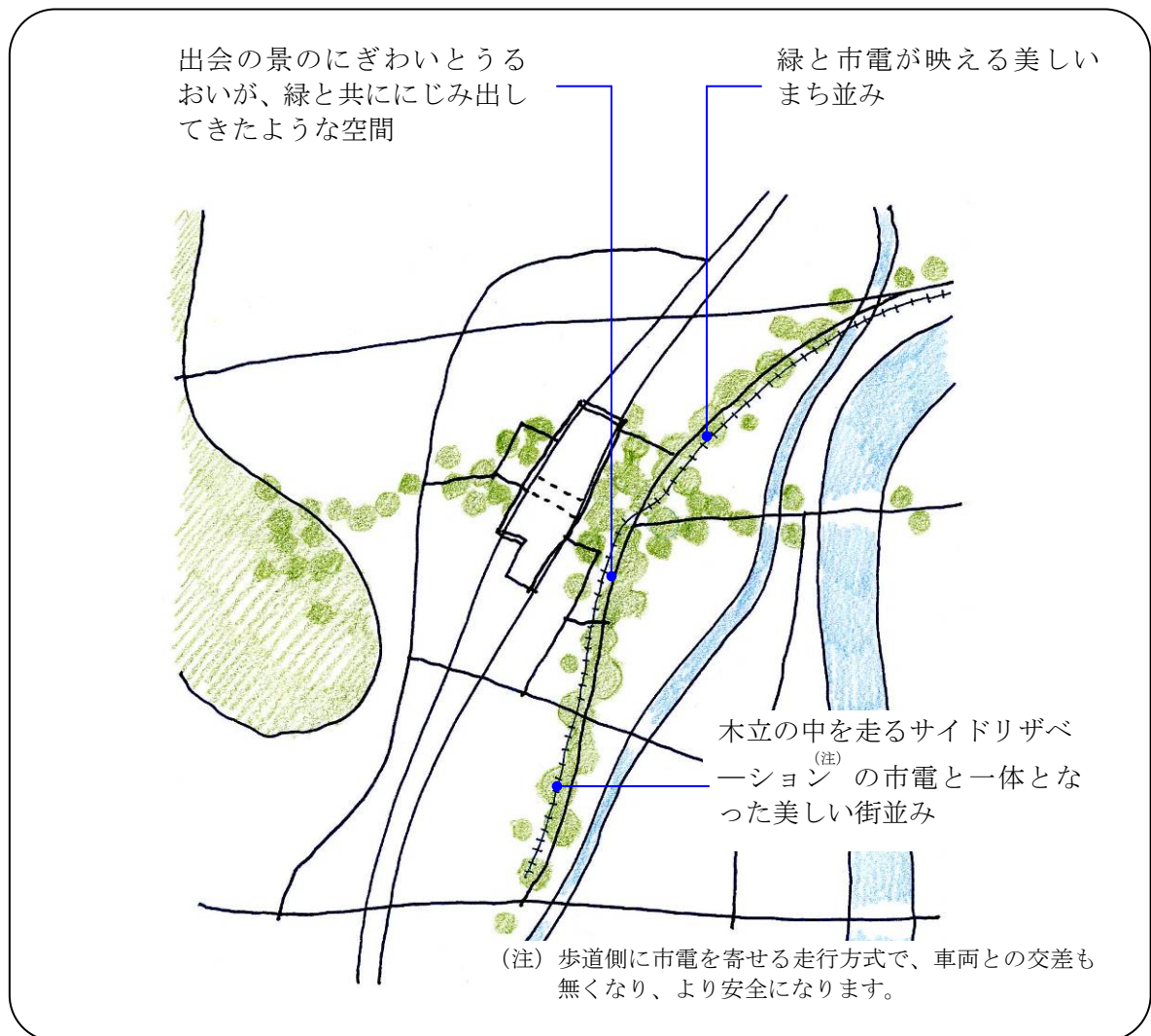


〈 東口駅前広場から東を望む イメージスケッチ 〉

木立の景について、都市空間デザインのコンセプトを示します。

(1) コンセプト

○民有空間と公共空間が一体となった、緑のまち並みの中を市電が走る、美しい空間を創出します。



緑と市電と街並みの一体感

熊本を象徴する「緑」と「市電」の2つの特性を活かして、木立の中を走る市電が心地よく映える、美しい街並みを形成します。

快適な移動

都心へ向かう主要な動線として、人々の快適な移動を確保します。

地域で創出する多彩な木立

公共空間だけでなく沿道敷地内の緑も連携して、多彩な木立や緑地を創出します。

にぎわい

歩道と沿道の民有空間が一体となってにぎわいを演出・創出します。

安全・安心

歩道と沿道の民有空間が連携して、利用者の安全と安心を確保します。

木立の景について、空間の考え方を示します。

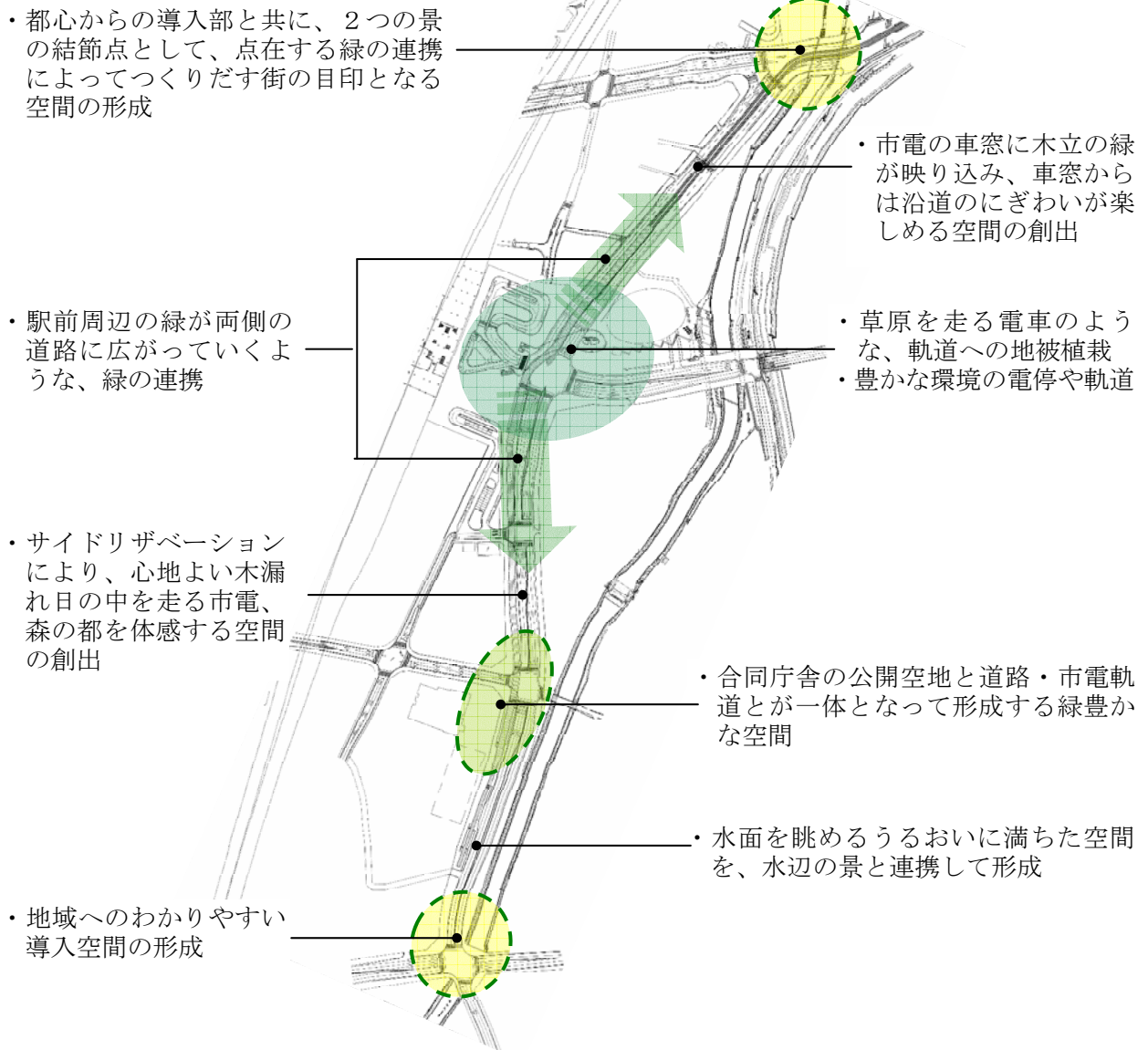
(2) 空間の考え方

木立の景では、

- ・ 出会の景とのつながりや、景の一体感を演出する「木立の連続」
 - ・ 緑、にぎわい、安全・安心を確保するための沿道民有空間との「協調・連携」
- を大切な空間の考え方とします。

① 出会の景からにじみ出してきたような木立が連続した空間を形成する

出会の景からにじみ出すような連続性と協調性を確保しつつ、森のように自然な木立を感じるよう緑の設えを工夫します。



② 沿道の建築物との協調・連携を大切にする

歩道と沿道敷地とが連携して構成される一体的な空間が、都市のにぎわいとうるおいを感じられるように設えます。

- ・ ですみいりすみ 出隅入隅^(注)を活用した緑化空間やタマリ空間を創出



- ・ 歩道と沿道とが一体となってつくるにぎわい空間の形成

- ・ 軌道や歩道路面、公開空地に配置される緑は、それぞれがハッキリとしたエッジ(縁線)をもって区切られるのではなく、それぞれがにじみ出して連続するような関係を見せる緑化景観を形成

(注) 建物の配置・形状などにより、道路に面した敷地部分に、平面的に凸凹した空地を創出すること。

〈 サイドリザベーションの断面イメージ 〉

- ・ 屋外広告物の形態に配慮して、魅力的な市街地景観を形成します。
- ・ 沿道土地利用によって創出される出隅入隅の空間を活用して、緑化空間やタマリ空間の配置に努めます。
- ・ 沿道建物の低層部は、昼も夜も歩行者が街の楽しさや活気を感じるように、街のにぎわいづくりに配慮します。

木立の景について、コンセプトや空間の考え方を基に、一つの例としての空間のイメージを示します。

(3) 空間のイメージ

沿道空間と歩道とが連携したうるおいとにぎわいの空間と、木立の中を走る市電の風景を表現しています。

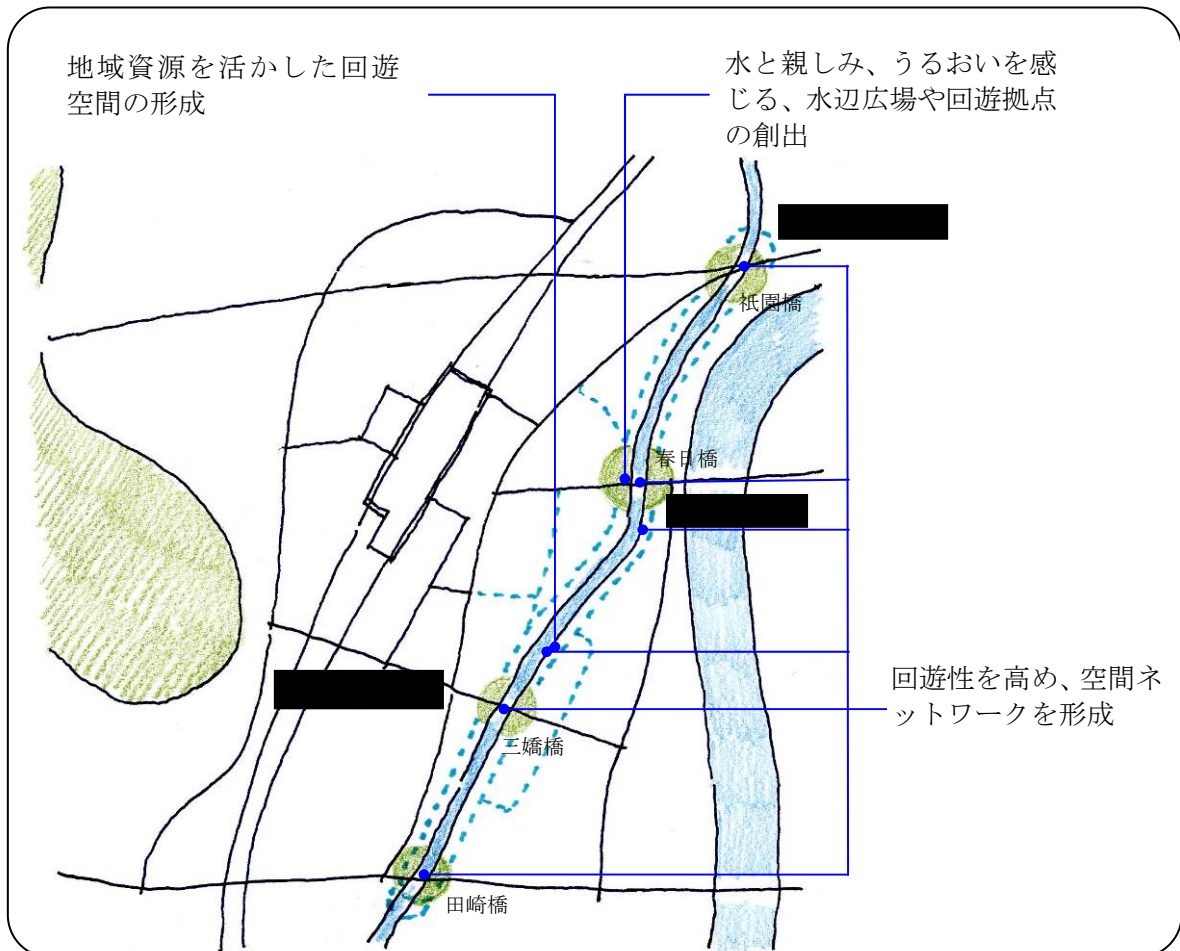


〈 熊本駅城山線 二本木交差点より北方向を望むイメージスケッチ 〉

水辺の景について、都市空間デザインのコンセプトを示します。

(1) コンセプト

○地域資源を活かしつつ、田崎橋～水辺の広場～祇園橋を結ぶ安全で変化に富んだ水際の回遊歩行空間を創出します。



回遊性

タマリ空間を設けつつ水辺の散策回遊空間を形成します。

安全・安心

誰もが安全で安心して回遊を楽しめる空間を形成します。

地域資源の活用

街の記憶を大切にするため、貴重な地域資源（水、樹木、緑、歴史的遺産）を積極的に活用した空間形成を図ります。

にぎわい

タマリ空間を活用して、水辺を楽しむ人々のにぎわいを演出すると共に、川に面した敷地では川側を表に見立てた開発を誘導します。

うるおい

季節の変化や安らぎとうるおいを感じる空間を形成します。

水辺の景について、空間の考え方を示します。

(2) 空間の考え方

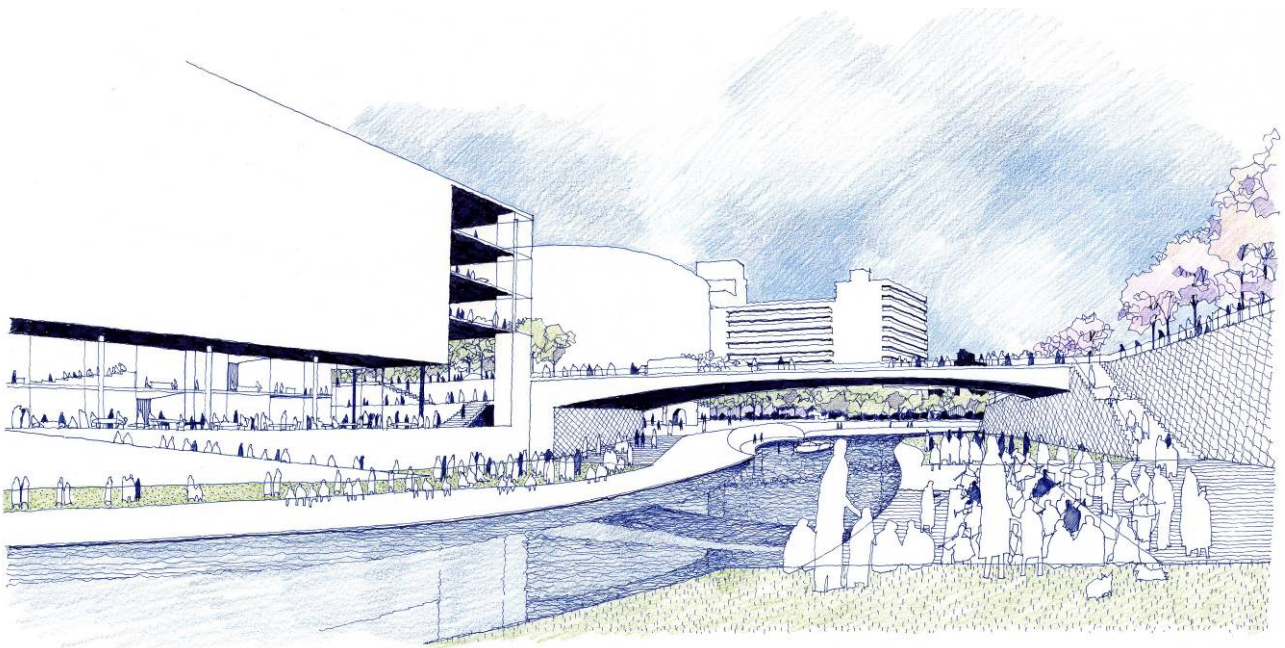
継ぎ目のない連続性のある空間ネットワークを形成するため、拠点同士に「見る・見られる」の関係を与え、回遊性を高めます。



水辺の景について、コンセプトや空間の考え方を基に、一つの例としての空間のイメージを示します。

(3) 空間のイメージ

坪井川沿いの建物や広場が互いに連携しあい水に近づき親しめる空間を、表現しています。



＜ 春日橋下流側から北方向の水辺の広場と散策路を望むイメージスケッチ ＞